

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 15 日 (2007.3.15)

【公開番号】特開 2005-216665 (P2005-216665A)
 【公開日】平成 17 年 8 月 11 日 (2005.8.11)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-031
 【出願番号】特願 2004-21604 (P2004-21604)
 【国際特許分類】

F 2 1 V 8/00 (2006.01)

G 0 2 B 6/00 (2006.01)

G 0 2 F 1/13357 (2006.01)

F 2 1 Y 103/00 (2006.01)

【F I】

F 2 1 V 8/00 6 0 1 E

F 2 1 V 8/00 6 0 1 A

F 2 1 V 8/00 6 0 1 C

G 0 2 B 6/00 3 3 1

G 0 2 F 1/13357

F 2 1 Y 103:00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 1 月 26 日 (2007.1.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一次光源と組み合わせて面光源装置を構成するのに使用され、前記一次光源から発せられる光を導光する面光源装置用導光体であって、

前記一次光源から発せられる光が入射する光入射端面及び導光される光が出射する光出射面及び該光出射面の反対側の裏面を有しており、

前記光入射端面は、超深度形状測定顕微鏡による計測に基づき得られる前記導光体の厚さ方向の平均傾斜角が 3°以上 12°以下であることを特徴とする面光源装置用導光体。

【請求項 2】

前記光入射端面は、超深度形状測定顕微鏡による計測に基づき得られる傾斜角の度数分布における傾斜角 20°以上の成分の存在割合が 40%以下であることを特徴とする、請求項 1 に記載の面光源装置用導光体。

【請求項 3】

前記光入射端面は、超深度形状測定顕微鏡による計測に基づき得られる前記導光体の厚さ方向の中心線平均粗さ R_a が 0.2 μm 以上 0.4 μm 以下であり、厚さ方向と直交する方向の中心線平均粗さ R_a が 0.02 μm 以上 0.1 μm 以下であることを特徴とする、請求項 1 ~ 2 のいずれかに記載の面光源装置用導光体。

【請求項 4】

前記光入射端面は、超深度形状測定顕微鏡による計測に基づき得られる前記導光体の厚さ方向の十点平均粗さ R_z が 0.7 μm 以上 2.0 μm 以下であり、厚さ方向と直交する方向の中心線平均粗さ R_z が 0.03 μm 以上 2 μm 以下であることを特徴とする、請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の面光源装置用導光体。

【請求項 5】

前記光入射端面は、粗面、前記導光体の厚さ方向と直交する方向に互いに平行に延びた複数のレンズ列を備え且つその断面形状に曲線を含むレンズ列形成面、または前記導光体の厚さ方向と直交する方向に互いに平行に延びた複数のレンズ列を備え且つ該レンズ列の少なくとも一部を粗面化してなる粗面化レンズ列形成面であることを特徴とする、請求項 1～4 に記載の面光源装置用導光体。

【請求項 6】

請求項 1～5 のいずれかに記載の面光源装置用導光体の光入射端面に対向して前記一次光源が配置されていることを特徴とする面光源装置。

【請求項 7】

更に、前記導光体の光出射面上に配置され、且つ前記導光体の光出射面から出射する光が入光する入光面及びその反対側の出光面を有する光偏向素子を備えていることを特徴とする、請求項 6 に記載の面光源装置。